

「首切り・出向賛成! 労仲強化すんでOK...!」60・3推進の動労本部を打倒せよ



85. 2. 18
No. 1866

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五六 (公衆)〇四七二二七二〇七

「60・3」実力決起るために

「60・3」は中曽根の「戦後政治の総決算」をかけた国鉄労働運動解体攻撃そのものであり、国鉄労働者の総決起で粉碎しなければならない。にもかかわらず、動労「本部」革マルは「国鉄を国鉄として維持するために骨身を削って働こう」などといいなし、当局の先兵となって合理化Ⅱ首切りの「60・3」に率先して協力し裏切っている。動労千葉を先頭に「60・3」の爆発を実現し、労働者の敵Ⅱ動労「本部」革マルの追放・一掃をかちとろう。

「便利になる」と「60・3」に賛成する動労「本部」革マル

当局は「60年度二五〇〇〇人の合理化」のうち一五〇〇〇人を「60・3ダイ改」で実施しようとしている。その内訳は、運転関係で八〇〇〇人、営業関係で七〇〇〇人である。

最大の特徴は、動力車乗務員の勤務制度を改悪し、現行より五割の労働強化をすることにより乗務員の三割削減を狙っていることにある。こうした攻撃を呼びこんだ元凶こそ、乗務員の七割を組織しながら昨年三月、動乗勤の裏切り妥結を強行した動労「本部」革マルにあることはいうまでもないことだ。

動労「本部」革マルは、「国鉄を国鉄として維持するために骨身を削って働こう」といいなし、合理化や「三本柱」をはじめとする「過員」対策に率先して協力してきた。そして今、さらに「過員」を生み出し、十、十五万人首切り攻撃の突破口である「60・3」に対し、なんと「『三本柱』の具体的のりこえと同時平行して、仕事づくりと雇用の確保を目指すもの」と位置付け、「60・3で国鉄を便利にします」なる、当局のものとも見まじがうかのような宣伝ビラをまき、率先して効率化を推進するとともに、「拡大する余剰人員に対しては三本柱で雇用を守る」と称して、労働者を「ホテル」や「キオスク」や「コーヒーション」などにかりたてているのだ。

「動労高崎地本」が早々と「60・3」の裏切り妥結

「60・3」こそ十、十五万人首切りの突破口ととらえ、動労千葉を先頭に多くの労働者が血を流すことも辞さず反撃に起ちあがろうとしている。中、「動労高崎地本」は1月30日、早々と「60・3」の裏切り妥結を強行した。彼等自身が「効率のみ追求した結果の人間性を

も無視した当局案」と主張していた高崎地本局の「60・3」提案に対し、あろうことか「大形化した交番内容は、当局がより私鉄並みの効率度と主張する私鉄のそれを内容的にはるかに上廻る深夜帯の増をはじめ、乗務員の労働条件を大巾にきりちぢめる」内容で早々と妥結してしまったのである。しかし、これは当然すぎるほど当然の結果といえる。

なぜならば、「動労高崎地本」の委員長・革マル五味は昨年の「地本大会」でなんといつていたのか。「高崎より東京、長野局の方が効率化が秀れているとなれば、業務量が移項することになります」従って「60・3」に向けて、具体的には動労提言を実現するための取り組みとなる」と断言しているのだ。こうした方針のもと、「動労高崎地本」が全国にさきがけて「骨身を削り国鉄の利便性を高める動労提言」を実践してきたことの当然の帰結がこの裏切りなのである。早々と「60・3」を妥結しながら「労働条件についてはほとんど前進が得られなかった」とはよくぞ言えたものだ。組合員こそ哀れというものである。

動労「本部」革マルの「60・3で国鉄を便利にします」運動は、「60・3賛成」の立場であり、またしても全国鉄労働者を裏切り、妥結を強行することは明らかだ。

いまこそ、首切り「三本柱」と「60・3」大合理化の先兵Ⅱ動労「本部」革マルを打倒、一掃しよう。(以下つづく)

「いそぐたい」という8名の組合員を売店にむかした「本部」は、今「8名の仲間の犠牲的精神に続こう」と「三本柱」全力推進運動を展開している。

▼当同編まの「60・3」大賛成運動の「本部」。